

2021 年度「多摩地域市民活動公募助成」事業実施報告書

団体名 多胎サークル happy twins

代表者・役職名 氏名 代表 中村 香織

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

外出応援!! ふたごじてんしゃレンタル事業アセスメント

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

100 人に 1 人の割合で生まれる多胎家庭ですが、その多胎育児を取り巻く環境は大変の一言で言い表せないほど過酷です。育児で寝る時間も休む時間もないまま、不安や疑問の多い多胎育児の相談をすることも公的なサポートを受けることもできない。そんな環境ではいけないと思い、同じ多胎家庭同士が集まり情報交換できる場を作りたいと思いサークルを立ち上げました。現在市内外合わせて 21 組の登録があります。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

前後に子どもを乗せる自転車は前席の子供が 3 歳までしか乗れない為 4 歳になると双子や年子など自転車に乗れなくなる。後席に 2 人乗せられるふたごじてんしゃがあるが知らない方も多い。外出が難しく孤立しやすい多胎家庭にまずは『ふたごじてんしゃ』を利用して少しでも外出の機会が増やせるようレンタル開始を目標に、まずはあまり知られていない『ふたごじてんしゃ』の試乗や短期レンタルを通して利用体験してもらい、レンタルがどの程度ニーズがあるか調査する。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

- ・ふたごじてんしゃの試乗会
- ・ふたごじてんしゃの短期レンタル
- ・外出をためらってしまいがちな多胎家庭がふたごじてんしゃを利用することで
- ・外出に対しての抵抗を減らし、親子共にストレス発散、孤立化を防ぐ

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

試乗会は緊急事態宣言が出てしまったこともあってか参加者が少なかった。短期レンタルに関しても希望者が少なかった為、貸出期間の延長やレンタル料金の変更などを行った。成果としては予定通りに進まないこともあったが、実際にレンタルした際のメリット・デメリットの感想を聞くことができ、レンタルをするうえで更に検討・改善が必要などとも見えてきたので来年度はその点も踏まえ調査を進めていきたい。社会的な変化としては、試乗会へ他市の市議の方も見学に来てくださり実際に試乗もしていただいた。また、この取り組みに興味を持っていた東京都社会福祉協議会の広報誌へ多胎育児について掲載いただいたり、(株)ふたごじてんしゃの新聞記事の一部にレンタル事業についても掲載いただいた。サークル SNS でも反響をいただき全国初の試みということもあり多くの関心はいただけたと思う。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

今回想定していたよりも試乗会参加人数・短期レンタル申込みともに想定を下回る結果となった。原因としてはふたごじてんしゃに関しての周知不足や当初の参加対象の範囲を狭くしたこと(市内と瑞穂町・東大和市のみ対象等)、試乗会開催時期や開催方法も原因となっている可能性がある為、見直しを行い次年度は興味を持ってもらい参加してもらえるよう改善していく。レンタルに関しても維持や自転車の受け渡し方法等検討すべき課題があるので引き続き調査を進めていく。次年度の調査結果でレンタル希望の声が多ければレンタル実現に向けてサークルだけでなく行政や他の団体と連携を取りふたごじてんしゃをレンタルできないか、調整を進めていきたい

7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。



多胎サークルhappy twins 主催

ふたごじてんしゃ試乗会

この事業は2021年度真如苑の助成を受けて実施しています

三輪の自転車
で後ろに
2人乗せら
れるから
安定してる



前かごに
荷物も
乗せられる

後ろで2人
楽しくお話
してる♡



日 程

2021年9月4日(土)
2021年9月25日(土)
2021年10月9日(土)

時 間

9:00~12:00
※感染症対策の為
完全予約制

対 象 者

武蔵村山市内在住で
・多胎(双子・三つ子)家庭の方
・年子や2人の子どもを乗せて
自転車を利用される方
・瑞穂町・東大和市の多胎家庭の方
※自転車に乗せるお子さんの対象
年齢は1歳~6歳(未就学児です)

場 所

武蔵村山市役所第二駐車場

定 員

各日7組

申込みフォーム

詳細はサークルのSNS
よりご確認ください

協賛：武蔵村山市

株式会社ふたごじてんしゃ

協力：武蔵村山市ボランティア・市民活動センター



快走中

「2人同時に泣かれると私1人では連れ出せない。双子の育児は本当に大変です」。株式会社「ふたごじてんしゃ」（兵庫県）代表の中原美智子さん(50)は振り返る。

中原さんは2010年に男児の双子を出産。上に長男がいたが、双子の育児は想像を絶した。外出するには、2人分の重い荷物を持つて移動し、目が離せない。引きこもりがちになり「子どもを閉じ込め、いろいろな体験の機会を奪っている。母親失格だ」と自分を責めた。双子が1歳を過ぎた頃、意を決して自転車で外出したが、バ

双子用自転車



「ふたごじてんしゃ」に双子の子どもを乗せる中村香織さん
—東京都武蔵村山市

母親発案 三輪で安定

ランスを崩して転倒。「双子でも乗りやすい自転車欲しい」と強く思ったという。

子どもを前後に乗せる一般的な自転車の座席は「SGマーク」で知られる製品安全協会

(東京)の基準で、前は4歳未満、後ろは小学校入学前まで。同時に成長する双子は4歳になるまでしか2人一緒に乗せられない。

中原さんによると当時、双子に特化した自転車は市販されておらず「自分で作ろう」と決意。道路交通法を勉強し、粘り強くメーカーに掛け合った。自転車部品製造販売大手のオージケー技術(大阪府)が商品化を引き受け、試乗と改良を重ねて18年に「ふたごじてんしゃ」が完成した。

三輪で、後ろに子ども用座席



「ふたごじてんしゃ」の試作品に乗る中原美智子さん(本人提供)

を前後に並べたのが特徴だ。就学前で22歳までの子ども2人が乗車できる。価格は13万2千円、専用チャイルドシートは二つで計3万3千円。

保護者から「こんな自転車が欲しかった」と喜びの声が届くという。年間数百台が売れている。

ただ、段差で転倒しやすい、坂が多い地域には向いていない、といった三輪ならではの難点も。電動アシストは付いていない。購入するには短所も理解した上でホームページで手続きし、販売店に申し込む必要がある。中原さんは「たくさん売るのが目的ではない。気軽に外に出て、自分らしい子育てをする助けになりたい」と力を込める。

東京都武蔵村山市の多胎サークル代表、中村香織さん(37)は女児の双子(4)の母親だ。昨年、ふたごじてんしゃ購入を考えたが、当時3歳の双子が乗れるのはあと2、3年。値段を考えるとちゅうちょした。

そこでサークルで1台購入し、近郊の希望する家庭に貸し出し、どういったニーズがあるのか調査している。「育児支援として車のチャイルドシートや電動自転車を貸し出す自治体もある。将来的に双子用自転車も自治体でレンタルできるようにすれば」と願っている。

レンタル検討の動きも

こんなのが
ほしかった

双子用自転車 快走中!

双子を乗せて走りやすい自転車が子育て家庭から注目を集め、快走中だ。開発したのは外出に苦労した双子の母親。三輪で、子どもの座席が低く、安定性を重視した。気軽に利用できるようレンタルの仕組みを検討する動きもある。



「ふたごじてんしゃ」の試作品に乗る中原美智子さん＝本人提供

育児体験の母親が開発

「二人同時に泣かれると私一人では連れ出せない。双子の育児は本当に大変です」。株式会社「ふたごじてんしゃ」(兵庫県)代表の中原美智子さん(30)は振り返る。中原さんは二〇一〇年に男児の双子を出産。上に長男がいたが、双子の育児は想像を絶した。外出するには、二人分の重い荷物を持つて移動し、目が離せない。引きこもりがちになり「子どもを閉じ込め、いろいろな体験の機会を奪っている。母親失格だ」と自分を責めた。

双子が一歳を過ぎた頃、意を決して自転車で外出したが、バランスを崩して転倒。「双子でも乗りやすい自転車欲しい」と強く思ったという。子どもを前後に乗せる一般的な自転車の座席は「SGマーク」で知られる製品安全協会(東京)の基準で、前は四歳未満、後ろは小学校入学前まで。同時に成長する双子は四歳になるまでしか二人一緒に乗せられない。

「気軽に外出を」◆レンタルの仕組み検討も

中原さんによると当時、双子に特化した自転車は市販されておらず「自分で作ろう」と決意。道路交通法を勉強し、粘り強くメーカーに掛け合った。自転車部品製造販売大手のオーシーケー技研(大阪府)が商品化を引き受け、試乗と改良を重ねて一八年に「ふたごじてんしゃ」が完成した。

三輪で、後ろに子ども用座席を前後に並べたのが特徴だ。就学前で二歳までの子ども二人が乗車できる。価格は十三万二千元、専用チャイルドシートは二つで計三万三千元。

保護者から「こんな自転車が欲しかった」と喜びの声が届くという。年間数百台が売れている。

ただ、段差で転倒しやすい、坂が多い地域には向いていない、といった三輪ならではの難点もある。電動アシストは付いていない。購入するには短所も理解した上でホームページで手続きし、販売店に申し込む必要がある。中原さんは「たくさん売るのが目的ではない。気軽に外に出て、自分らしい子育てをする助けになりたい」と力を込める。

東京都武蔵村山市の多胎サークル代表、中村香織さん(30)は女兒の双子(四つ)の母親だ。昨年、ふたごじてんしゃ購入を考えたが、当時三歳の双子が乗れるのはあと二、三年。値段を考えるとちゅううちよし。

そこでサークルで一台購入し、近郊の希望する家庭に貸し出し、というニーズがあるのか調査している。「育児支援として車のチャイルドシートや電動自転車を貸し出す自治体もある。将来的に双子用自転車も自治体でレンタルできるよつになれば」と願っている。

しても観光立国を担うという建前だった。ただ、近年は観光分野に目立った実績はない。それでも首相が起用し

への影響力は限られるので、会議で不信任案に賛成票を投じた思いにじむ。つまりは「友情」を優先させた人事のた。加藤一派は本会議を欠席

回った。三人の座をつか築いた小泉氏情と計算の二

風呂敷で水運びリレー 世界記録

